

## 探究科学科県内企業施設研修報告（2）

◇期日:令和7年10月17日(金)  
◇場所:株式会社榎田酒造店(富山市東岩瀬町)  
株式会社スギノマシン(滑川市栗山)  
◇参加者:第1学年探究科学科 16H 生徒 40名

午前は株式会社榎田酒造店を訪問した。看板商品「満寿泉」の販売と並行して、岩瀬の街づくりに尽力する社長・榎田隆一郎氏から、日本らしさやキャリア選択について学んだ。氏は米国留学して「日本の遅れ」を痛感したという。その経験から、岩瀬の町並みや建物を改修し、そこに料理人や工芸作家を招くなどして、岩瀬の魅力を発信している。革新的なまちづくりの根底には、「身近な人を幸せにしたい」「日本を誇れる国にしたい」という愛情がある。留学や海外経験によって知見を広げることは、人生に彩りを与える有効な手段だと実感した。



午後には株式会社スギノマシンを訪問した。産業用メカや自動化システムを開発する B to B:Business to Business の企業であり、超高水圧で物体を切断する「ウォータージェットカッター」などの高度な技術を有するほか、植物由来の「バイオマスナノファイバー」を活用した環境事業も進めている。社長・杉野岳氏は、新規事業の着想には「考え続ける力」が重要だと語られ、英語科で学んでいる「セレンディピティ」との関連を感じた。



AI の進化で、人間の役割は再定義を迫られている。AI は直ちにあらゆる作業を正確にこなし、人の感情をも理解し「人間らしく」なるだろう。その中で、受動的に知識を詰め込み、他者に依存する「グライダー人間」は居場所を失いかねない。私自身もその傾向がある。未曾有の時代を生きるため、座学の知識や経験だけを頼りに生きてはいけない。やはり、能動的に学んで生きる「飛行機人間」になるべきだ。まさに、これこそが身につけるべき「圧倒的基礎力」の終着点なのかもしれない。

